

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市泉障害者福祉センター
2	指定管理者	社会福祉法人 仙台市社会福祉協議会
3	指定期間	平成29年4月1日～平成34年3月31日
4	施設の利用状況	《利用者数》 ・平成29年度 4,680人（前年度比 107.3%） ・平成28年度 4,361人（前年度比 110.5%） ・平成27年度 3,945人（前年度比 102.4%）
		《事業》 ○貸館事業：障害者の自主的な活動及び障害者の福祉に関する市民の自発的活動のための施設の提供その他の援助 ○障害者の福祉に関する講習会の開催その他福祉に関する啓発活動 ○障害者福祉センターの運営管理
5	収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 650千円 (705千円) ()は前年度決算額 ・ その他市が負担した費用 731千円 (0千円) ※H29については他施設分含む
		《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)
6	利用者の声	《実施状況》 利用団体アンケート・主催講座参加者アンケート・利用報告書の御意見欄等を通し改善に取り組み、その結果を館内の掲示板に公開している。事業運営については、挨拶、対応・説明、身だしなみ、施設の清潔さ等の観点でアンケート調査を実施しており、回答者の概ね8割以上が「満足以上」と回答しており、利用者からは概ね高い評価を受けている。

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野		所見	評価
I	総則	協定書及び仕様書に則り適切な管理運営がなされていると評価できる。設置目的や運営の基本方針を館内に掲示し、職員の定期的な打合せにて目的・方針の共有を図っている。同一建物内にある地区社協の支援センターと連携しながら、各種講座の開催やボランティア活動の支援等を通じて障害者福祉の普及に向けた活動を行なっている。	S
II	施設の運営管理体制	計画に基づいた人員配置のもと適切な運営がなされており、経理についても定期的な点検が行われている。個人情報保護や情報セキュリティ対策について、定期的な職員研修の実施、パソコンの施錠を確実にを行うなど必要な対応が講じられている。また、事故防止策として細かくマニュアルを整備しており、職場内のミーティング等で共有している。災害時に備え周辺施設と合同で訓練が実施され、有事の際の連携体制がとられている。	S
III	施設・設備の維持管理	同一建物内にある社会福祉センターと連携し、点検簿を用いて定期的な建物・設備の確認を行っている。館内で節電や節水に努めるとともに、エコ掲示板を館内に設置し利用者への周知を進めている。周辺施設と連携しながら、緑化活動も積極的に取り組んでいる。	S
IV	サービスの質の向上	接遇研修を通じてマナー向上に努めており、パンフレットやセンターだよりの定期的な発行、社会福祉センターと連携し利用団体への相談会の開催を通じて利用しやすいセンターとなるよう取り組んでいる。 日々のミーティングで情報共有・情報交換を図り、業務手順書の整備と見直しが行われ全職員が一貫した認識を共有できる体制を整えている。	S
V	施設固有の基準	音声案内を設置する等、障害者も利用しやすくなるよう施設の維持管理を行っている。ボランティアを対象とした講習会や、障害者のみに限定しない教室を開催し、終了後にはアンケートを実施し、今後の講習会につなげる工夫がなされている。	S

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み		取組み状況
1		
2		
3		
加点評価		—

四 評価総括

《指定管理者（仙台市社会福祉協議会）による自己評価》	
<p>仙台市泉障害者福祉センター(以下、「センター」という。)は障害者に対し必要な便宜を供与するとともに、障害者の福祉に関する指導や啓発等を行うことにより総合的な福祉の増進を図ることを目的としており、事業の実施にあたっては、仙台市の「仙台市障害者保健福祉計画」並びに仙台市社会福祉協議会の「地域福祉活動計画」及び「事業計画」等に基づき、障害者が自立した地域生活を送ることができるよう、障害者の福祉に関する講習会の開催、障害者の自主的な活動の促進及び福祉に関わる市民活動の支援等を関係機関との連携を通して事業の推進を図った。</p> <p>平成29年度は、「利用者(団体)の利便性の向上」、「聴覚障害者を支援するボランティアの養成講座」、「地域福祉活動団体と連携強化」の3つを重点事業として取り組んだ。</p> <p>1つ目の「利用者(団体)の利便性の向上」については、利用者(団体)のニーズを把握するため、センターの利用団体、講座・教室の参加者及びボランティアを対象としたアンケート(年2回)を実施し、施設運営に反映させることで、利用者の利便性向上に努めた。また、アンケート結果は、分かりやすく、大きく見やすい等の工夫をして館内へ掲示した。さらに、幅広い見地から意見をいただくために、運営委員会の委員を増員し、施設運営への意見・要望について協議できる体制を整えた。その結果、センターの貸館件数は、530件、利用者数は4,680名と平成28年度と比較して件数は28件、利用者数は319名の増加となった。</p> <p>2つ目の「聴覚障害者を支援するボランティアの養成講座の開催」については、平成28年度に実施したアンケートの結果に基づき、併設の仙台市泉社会福祉センターと連携しながら手話教室の夜間の部を開催した。講座修了後には、修了者による自主的な手話サークルの支援を継続して行い、聴覚障害者に関わるボランティア育成に努めた。また、当センターで活動するボランティア団体と、ボランティアを受け入れる側の障害者との交流会を開催し、相互の理解とネットワークの構築を図った。なお、自立訓練事業では年間延べ189名のボランティアが活動した。</p> <p>3つ目の「地域福祉活動団体と連携強化」については、地域の関係団体と情報共有や連携による包括的な支援体制の構築を目指すため、本会泉区事務所のCSWと連携し、地区社協が開催するサロン活動等へのレクリエーション器具の貸出しや介護予防運動等へ職員の派遣による支援を行った。また、大規模災害時には仙台市からの要請に応じて福祉避難所の訓練を速やかに開設できるよう、法人内の障害者施設とともに福祉避難所の机上運営訓練を実施した。さらに、近隣の福祉施設による「泉ぬくもりの里」内では、職種ごとの定期的な会議を開催し、情報共有や緊急時の協力体制づくりに努めた。</p>	

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>協定書及び仕様書に則り適切な管理運営がなされていると評価できる。</p> <p>必要な障害福祉サービスを提供することはもちろん、各種講座の開催等を通じて、障害者福祉に関わる人材育成に積極的に取り組んでいる点や、災害時に備えて福祉避難所の開設に向け、地域住民や周辺施設と連携した取り組みを進めるなど、地域の障害者福祉の拠点施設としての役割を果たしていると高く評価できる。</p> <p>また、災害時に備えて、福祉避難所の開設に向けて、地域住民や周辺施設と連携する取り組みを進める等の点は評価できる。</p>	S

◎ 評価担当課（施設所管課）：健康福祉局障害福祉部障害者支援課